

令和5年度 学校自己評価システムシート (県立川口高等学校)

S02

目指す学校像 生徒の可能性を追求し、進路を実現する力と人間力を高める学校

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

重点目標	1 高い志と目標を持って、主体的に勉学に取り組む姿勢を育成し学力の向上を図る。 2 部活動・学校行事を通して、協同しながら高い志を持って挑戦する強い心と自ら考えて行動する習慣を養う。 3 地域、家庭、中学校と連携し、伝統を受け継ぎつつ躍進する開かれた学校づくりを目指す。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※ 学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	5名
	事務局(教職員)	12名

学 校 自 己 評 価					年度評価(2月1日現在)		
年 度 目 標					達成度	次年度への課題と改善策	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標			
1	<p>【現状】 学校生活がコロナ前に戻りつつあり、今までの制限がなくなってきた。落ち着いて学習や行事、部活動に取り組めるようになり、コロナ禍をきっかけにで進んだICT化や行事の精選を継続していかなくてはならない。新しい学習指導要領や観点別評価、一人一台の端末の導入など形だけでなく進めていく必要がある。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭学習時間の増加と定着。 教育の情報化を一層の促進。 学力の3要素を育成する授業の実施 進学に重点を置く学校として全職員の情報共有 各取組のふりかえり指導の徹底 大学入試改革に向けた継続的な取組 	<p>生徒の学習習慣の定着と学力を向上させる授業の実践</p> <p>大学入試改革に対応した進路指導体制の整備と充実</p>	<p>①授業改善を進め、学力の3要素をバランスよく育成する授業を実践する。</p> <p>②HRプロジェクトやClassroom、BYOD等のICTの積極的活用を促進する。</p> <p>③タブレット等を生かせる授業の方法を研究する。</p> <p>④教育の情報化を含め、積極的に教員同士が授業研究、研修参加等を行う。</p> <p>⑤観点別学習評価について昨年度からの本校の課題や問題点を確認し、改善に取り組む。</p> <p>⑥授業や生徒の情報の共有化を一層進め、校務の改善に務める。</p>	<p>①学習習慣(授業時間外の学習が全学年の平均2時間以上/1日)が8割以上</p> <p>②プロジェクトや授業動画、補習動画の活用状況</p> <p>③タブレットを利用した授業の実施頻度</p> <p>④年2回の授業公開週間における授業参観の参加人数</p> <p>⑤観点別学習評価等新学習指導要領に関する校内外の研修等の参加</p> <p>⑥グループウェア等を活用して情報共有の仕組や資料の構築</p>	<p>①担任の面談等による生徒の学習習慣は年度当初はあるものの、後半は少なくなっていく生徒によって二極化が進んでいる。</p> <p>②授業で、プロジェクトを利用してパソコンから、視覚やclassroom、授業の動画作成を利用したICT化は多くの教員で実施されている。</p> <p>③1年生を中心に、タブレットを使用しての、授業での意見収集や課題の提出が実施されている。生徒はその使用にだいぶ慣れてきているようである。</p> <p>④授業公開はのべ87枚の授業見学カードを回収した。教科内での授業見学も行われている。</p> <p>⑤観点別学習評価は教員間でもかなり定着してきたが、主体性に関する評価基準や積み上げ方式の評価には課題も見られる。学年や教科の中での研修、見直しが進められている。</p> <p>⑥Goole classroomの利用は一般的になり、連絡や課題、お知らせなどの周知として活用している。今後の生徒のスケジュール管理も電子化が進んでいくと思われる。今年の総合的な探求で3年生が進路について1、2年生にプレゼンテーションを行い、好評であった。</p>	Y	<ul style="list-style-type: none"> 教員の課題としては校務支援システムの円滑な運用や行事予定の見直し、生徒の課題は隙間時間などを生かした学習習慣の確立や学習計画を立てることが課題である。 本校は今後どうあるべきか(将来構想)を議論し、それにもなると学習時間や授業時間、教育課程の見直しなどを行っていく必要がある。
			<p>①定期考査や模試に対して、早くからの勉強計画を立て実行し、実施後はふりかえりを徹底し、継続した指導を行う。</p> <p>②生徒の自律を促しつつ、全学年で学期内や長期休業中の講習会や進学補講を実施する。</p> <p>③生徒との面談を積極的に実施し、きめ細やかな進路指導を行う。</p> <p>④新学習指導要領や新たな入試制度の変化に対応する情報共有を校内で行い、改善を進める。</p> <p>⑤早期の段階から2年生からオープンキャンパス等への参加を生徒へ勧め、自分の進路、キャリア教育を進める。卒業生を招いて在校生へ話をしてもらおう機会を作る。</p>	<p>①希望進路決定8割以上</p> <p>②講習会・補講にのべ100名以上の生徒が参加</p> <p>③④ICTの活用や面談の実施</p> <p>③④研修会への積極的な参加や校内検討会の実施</p>	<p>①2月1日現在、進路決定者は243名(大学173名、短大9名、専門学校58名、就職3名)であり、現在一般受験者も90名弱いるが、進路決定は8割を超えと思われる。</p> <p>②平日補講22講座、夏季講習23講座、冬期講習8講座を開講し、のべ300人以上の生徒が参加した。</p> <p>③学級閉鎖中などに、オンラインでSHRや授業動画の配信などを行い、また平時でもスタディサプリの利用者が178名いた。</p> <p>④各大学の入試説明会に27回参加し、最新の入試情報を生徒、教員に伝えた。進路ガイダンスでは各種学校についての情報共有を行った。また3年生が1、2年生に進路の取り組みをプレゼン形式で発表した。</p>	X	<ul style="list-style-type: none"> 大学進学希望者が増えている中でそのための学力養成が課題である。 模試の位置づけを見直し、また講習の参加者を増やしていく。 進学先の進路の情報を面談等を通じて適切に生徒に提供していく。
2	<p>【現状】 基本的な生活習慣はついている生徒が多いが、校訓「高く正し」を実践できる生徒はそれほど多くない。基本的な生活習慣の維持と規範意識を意識して、学習と部活動をバランスよく両立させた高校生活の充実が求められている。</p> <p>【課題】 挨拶、服装、整頓、清掃等の風紀について改善・工夫する必要がある。精神的に不健康な生徒が増えており、スクールカウンセラーや家庭との連携が重要になっている。学校側も個々に応じた対応やきめ細やかな指導が求められる。自転車のヘルメット着用などの安全運転・安全点検・交通マナーの向上等の指導の充実が必要である。</p>	<p>組織的な生徒指導体制の下で、行事や部活動等の課外活動の一層の活性化と、生徒の人間力の醸成</p>	<p>①学校行事や部活動等を通して生徒のコミュニケーション能力やリーダーシップ、問題解決能力を育成する。</p> <p>②生活委員会の生徒を中心に、主体的に学校生活を改善していこうとする取り組みを積極的に支援する。</p> <p>③主体的に学習と部活動の両立を図ることができる指導体制を確立し、生徒手帳を積極的に活用して生徒一人一人が自ら計画的に時間管理するよう支援する。</p> <p>④交通安全教室で講演会を実施し、特に自転車通学の生徒に対して、交通安全意識や情報モラルを高める。</p>	<p>①部活動や学校行事の満足度が80%以上が6割以上</p> <p>②挨拶、服装、整頓、清掃等年間目標の実施状況</p> <p>③部活動加入率の推移</p> <p>④生徒の遅刻者数の推移</p> <p>⑤交通安全指導実施状況、交通事故0件日にちの増加など</p>	<p>①生徒会本部の生徒が文化祭の夜後祭実現のために奔走し実現させたり、学校説明会に参加し学校生活の紹介を行い、説明会に参加した中学生、保護者には好評であった。生徒のリーダーシップが発揮される場面が見られた。</p> <p>①生徒の学校生活への意識はおおむね満足しているが、一部不登校や欠席月の生徒も見られ、そのような生徒を減らしていくことが課題である。</p> <p>①いじめ調査において、いじめを訴えた生徒は0人であった。</p> <p>②挨拶をする生徒が多いが、一部まだ挨拶や服装が乱れている生徒がいる。特に女子の標元や化粧等への指導が学年が上がるにつれて増えている。</p> <p>③部活動については1年生を中心に高い部活加入率であるが、学年が上がるにつれ、参加しなくなる生徒や退部する生徒も出てきている。</p> <p>④生徒の自転車の事故報告は6件であり、昨年より、12件減少した。自転車乗車の際のヘルメット着用はあまり進んでいない。</p>	Y	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、特に女子への整容指導には改善や工夫が必要である。 生徒の問題行動は少ないが、クラスになじめないなどの学校に不適応を訴え、長期欠席や欠席がちになる生徒への対応が課題である。スクールカウンセラーや家庭との連携、保護者の意識改革も重要である。 生徒の自転車の交通事故や、乗車マナーについて引き続き指導していく必要がある。
3	<p>【現状】 今年から、学校説明会や部活動見学などで直接説明することが再開された。在校生の活動状況や学校生活の様子を学校ホームページや川高インフォメーションを通して情報発信することで、保護者や地域、中学生に本校の魅力を伝えている。学校説明会等の広報活動の内容の充実を図り、保護者や地域との連携を深めていく必要がある。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年や部活動ページにおける更新回数の上昇 ホームページ記事掲載に関する研修会等の実施 学校説明会の参加者数の維持 	<p>情報発信の定着化を行い、川高ファンを増やすことと保護者や地域の連携・協力を推進</p>	<p>①各学年での行事や部活動の予定、実績などを定期的に情報発信する。学校ホームページや川高インフォメーションを活用する。</p> <p>②保護者との連絡や連携を密にし、PTA活動の活性化を図る。</p> <p>③コロナ禍でできる、地域の中学生や地域の祭りやイベントに生徒会や部活が参加し地域との交流の充実を図る。</p> <p>④「新しい生活様式」のもとでハイブリッド方式で行える学校説明会や、校外の広報活動等を活用して中学生およびその保護者に学校の魅力を伝えるよう工夫を行う。</p>	<p>①記事投稿数とアクセス数の増加</p> <p>②PTAの活動回数</p> <p>③中学校や地域との連携回数</p> <p>④学校説明会等の参加者数増加</p>	<p>①ホームページへのアクセスは98240回と昨年より増加した。ホームページの記事の配置を見直し、投稿された記事を分かりやすくした。</p> <p>②PTAの活動回数は昨年と同じであるが、広報誌の発行回数を減らして役員負担を減らした。来年度以降活動する日を見直し集まりやすい日程を検討中である。</p> <p>③中学校を訪問しての説明は3回実施した。里中学校からは3年生全員が本校を訪れ、生徒会の生徒が案内の対応を行っている。</p> <p>③軽音楽部やボランティア同好会が鳩ヶ谷地区の祭り等に参加し、書道部が川口駅前でパフォーマンスを実施し、地域との交流を図った。</p> <p>④3回の学校説明会参加者数は1642名と昨年の1492名から150名増加した。夏のさいたまスーパーアリーナの彩の国教育フェアでは400組以上の親子が参加した。1月の中学生の志望者数では1.47倍となった。</p>	X	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの役割はますます重要になってきているので、記事の更新や見易さを常に検討していく。 PTAの活動については引き続き見直し、活動日や活動内容を検討していく。 今年の倍率はまだ未確定であるが、引き続き中学校への広報活動を広く続けていく。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日 令和5年2月7日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> 授業見学をした際に生徒が自習をきちんと静かにやっていることに驚いた。生徒の真面目さを感じた。専門学校では先生が板書したことを写真で取ることで、ノートを取らない学生も増えてきている。 ICT機器の利用が進む中で、わからないことやあいまいな漢字をすぐに調べられるが、その弊害として考える力が乏しくなったり、漢字が書けなくなることも出てきている。また考える力が乏しいなど、今後そこを考えていく必要がある。 タブレットやプロジェクターなどをうまく使っている姿に感心した。企業でも録音・録画している。学校を休んだ生徒に対する手立てとしては有効だと感じた。例えば公式に録画しておいて学校でのみ後日閲覧できるしくみなどがあっていいのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学進学希望者が3分の2を超えるということで、授業を大切に、生徒に学力をつけてほしい。学力を保証する学校を期待している。 模擬試験や進路業者を適切に活用して、生徒の進路指導に役立っていると思う。 外部検定の合格者が増加している。英検の合格者が以前より増加しているのは喜ばしいことだと思う。 3年生の合格状況では、埼玉県立大学の合格者が久々に出たり、ベネッセ進研模試の結果で進学校レベルの生徒も出てきたことはすばらしい。
<ul style="list-style-type: none"> 生徒、特に女子への整容指導には改善や工夫が必要である。 生徒の問題行動は少ないが、クラスになじめないなどの学校に不適応を訴え、長期欠席や欠席がちになる生徒への対応が課題である。スクールカウンセラーや家庭との連携、保護者の意識改革も重要である。 生徒の自転車の交通事故や、乗車マナーについて引き続き指導していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の満足感、充実感については人それぞれ価値観が違うことを考えるとアンケート結果で低い生徒がいることも、大きな問題ではないと思う。 生徒の遅刻に関して、社会に出ていくほど時間や期限を守ることは厳格になると思う。今のうちに時間を意識した行動ができることと良いと思う。 今の若い世代は、コミュニケーション能力やリーダーシップ、問題解決能力がコロナで休校の影響や会話が少なかったこともあり、磨けなかったのではないかと。川口高校の3年生の総合的な探求の時間でのプレゼン、部活、学校行事や2年生での授業や修学旅行での取り組みはよいと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ホームページの役割はますます重要になってきているので、記事の更新や見易さを常に検討していく。 PTAの活動については引き続き見直し、活動日や活動内容を検討していく。 今年の倍率はまだ未確定であるが、引き続き中学校への広報活動を広く続けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の評判を高めるためには川口高校ファンを増やすことが大事だと思う。自転車登校の様子も普段から見えていてマナーがよく守られている。そのような普段の姿も学校のアピールになると思う。苦情は学校への関心だと考えている 地域密着型の取り組みや学校の周りの清掃・挨拶は、近所の方にとっていい学校だなと感じるきっかけになる。すなわちその学校のファンになる。普段から清掃活動等を行っているが、そのようないいことを積み重ねるのが大事だと思う